

近江商人が今も伝える『三方よし』 ～日本の商道から学ぶ経営哲学

11 月 17 日 於 ツカキスクエア

(株)高畑工作所 高畑 國正

塚喜商事(株)代表取締役社長 塚本喜左衛門様にご講演を依頼しました。『三方よし』とは近江商人が長年培ってきた思想、行動哲学。塚本様はその近江商人の末裔です。

私たち小さな製造業の後継ぎ世代がこれからの厳しい時代を生き抜くためには、会社経営において礎となる信念を持ち、あるべき姿を思い描いてそれを実現する覚悟が必要だと考えます。近江商人の経営哲学、またその血筋を大切に受け継がれている『ツカキ』様の歴史や家訓、現在に至るまでのご活躍に触れることで、利潤の追求だけではない、企業の『あるべき姿』とは何かを探りたい、そんな思いで企画された例会です。

第一部講演会、第二部懇親会を行い、23 名の方にご参加いただきました。

講演の始まりは近江商人の歴史から。渡来人の影響を受けた奈良朝前後の時代、頭角を現した戦国時代、世界へ飛び出した明治維新での活躍など、近江商人輩出の歴史をその時代背景とともにご説明いただきました。

基本理念「三方よし」については参加者からも意見を募り、系統立てて整理していただきました。「三方よし」は言わば日本的 CSR の源流であり、また時間の概念があることにも初めて知ることができました。



家訓については近江商人に共通すること、塚本家に伝わることをお話しいただきました。近江商人が真っ先に掲げるのは「互譲と融和」であり、才覚自慢と負けじ魂は店を潰す最大要因とみていたそうです。

塚本家の家訓は「積善の家に必ず余慶有り」。善いことをすると必ず子孫に幸福がやってくるという戒めです。

塚本家では習慣が一番大切と考えておられます。家族に根付いた生活習慣の中で三方よしを学び、またそれこそが次の世代につながる財産だということです。

子供の勉強に一番よく効くお説教として使われたのが「長者三代の鑑」の掛け軸(右写真)。3 つの絵が描かれており、下から「初代の図」「二代目の図」「三代目の図」とのことですが、解釈は見る人の自由。この絵が何を表わすのか参加者も一緒に考えました。塚本家では厳しい解釈をされていたようです。皆様はどう感じられるでしょうか？

第二部の懇親会では食事をしながら質疑応答や機青連の企業紹介などをさせていただきました。

「三方よし」のことは知っているようで実は知らなかったことがたくさんあって、塚本様のお人柄に触れながら、実体験に基づいた気迫溢れる教えをいただいたように思います。

塚本様、ありがとうございました。

